

JAZZ

O-CHA-NO-MA REVIEW

JAZZ



アーク・オブ・ザ・テシモニー
ARCANA
[BSMF RECORDS BSMF7638]

ジャズ/フリージャズを基に多種の音楽要素をマテリアルに多様なバンド活動を続ける鬼才ビル・ラズウェルとマイルス・デイビスとの“黄金クインテット”以降の重鎮トニー・ウィリアムスがアルカナ名義でリリースした97年2ndアルバム再発盤!本名義は現代音楽家/ギタリスト鬼才デレク・ベイリーにより95年に結成されるも翌96年1ST発売後にベイリーが脱退しユニットとなった第一弾。ウィリアムスの晩年の活動作品であり、本作直後に死去となり遺作でもある本作に未発表曲も追加収録の完全版。奇人バカテック・ギタリストのパケットヘッドやスピリチュアル重鎮ファラオ・サンダースらも参加した前衛ジャズ・ロック絵巻。(神戸店 黒田朋規)

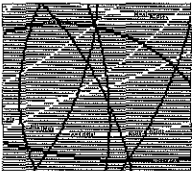
JAZZ



Plays the Music of Ed Puddick - Crazy Days
The Upper Austrian Jazz Orchestra
[ATS Records CD0972]

偉大なる作曲家を多数輩出しクラシック及びオーケストラの基を築いたオーストリアの優秀なミュージシャン達により結成されたアッパー・オーストリアン・ジャズ・オーケストラの2021年作。ロンドンで活動する作曲家/アレンジャー/指揮者のエド・パディック作品のジャズ化!ド派手なビッグ・バンド・ジャズ・サウンドではなく、統制と抑制のあるグループとアレンジの秀でたアカデミックなビッグ・バンド・アンサンブル傑作。ほぼ同時発売となるブラジル音楽への造詣を体現した『Brazilian World Music Project』も重要作。各々で活動及び母体グループを所持するメンバーの“個”であり集合体の妙。(神戸店 黒田朋規)

JAZZ



Gentle Ghosts
Benoit Delbecq
[Jazzdor Series AD6782C]

フランス鬼才ピアニストのデルベック・ブノワの全曲オリジナル曲の2021年作。最高峰テナーサックスのマーク・ターナーが参加。さらに、伝説ピアニストのアンドリュウ・ヒルのトリオ最後のリズム・セクションだったジョン・エペール(b)とジェラルド・クリーバー(ds)が加入した最強布陣。セロニアス・モンク、ポール・ブレイなどに影響を受け消化し研磨された鬼才たる由縁を体現するアイデンティティがここに。自国のみに留まらず常に国際的な活動を約30年も前線で続けてきた“今”のブノワ。随所に施された民族音楽のポリリズムやクラシックの技法など自身への実直なまでの追及は冷たくも熱を持った唯一のジャズ。(神戸店 黒田朋規)

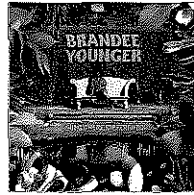
JAZZ



The Other Shore
Amir El Safar (tp)
[Outnote Records 540043906409]

イラク系アメリカ人トランペット奏者のセブテット、トウー・リバース・アンサンブルから発展したプロジェクト、リバース・オブ・サウンドの2作目。アラブと西欧の奏者が混在する編成でルーツを存分に発揮しつつ、作曲/指揮/演奏のヒエラルキーやコード、スケールなど既存の方法に捉われない集団即興、破壊ではなくあくまで調和を目指し、より自由である為にパルスや微分音を駆使しそれぞれが色を付けていく演奏による様々なレイヤーがやがて大きな潮流となる。ドラムは引き続きナシード・ウェイツ、鍵盤が今作からクレイグ・テイボーンからジョン・エスクリートに交代し新たな色を添えている。(渋谷店 片切真吾)

JAZZ



Somewhere Different
Brandee Younger (hp)
[Verve/ユニバーサルミュージック UCCJ-1051 (CD) 381934 (輸入盤 LP)]

アリス・コルトレーンやドロシー・アッシュビーの遺伝子を現代に蘇らせるハープ奏者がインパルスからメジャー・デビュー。ですよね、と言いたくなるほどに、シャバカがそうであったように、スピリチュアル・ジャズの総本山たるこの名門が彼女と契約しない理由はない。その演奏には確実にアリスやドロシーからの影響がある。そのうえで盟友デズロン・ダグラスプロデュースのもと、ヒップホップなど現代的なアプローチを積極的に取りながらジャズ・ハープの可能性を更新するようなプレイは美しさと同時に一音一音に強さを持つ。ゲストにロン・カーターも参加、新たなジャズ・ハープの名盤誕生の瞬間だ。(渋谷店 片切真吾)

JAZZ



Awe
Samy Thiebault
[Gaya Music Production AD6734C (CD) AD6735LP (LP)]

レーベルも自身で手掛けているフランスのサックス奏者、サミー・ティボーがここ数年に渡って進めてきたソロ・プロジェクトの集大成としてリリースする注目新作。グラミー・ウィナーのトランペッター、ブライアン・リンチや名ドラマーのダフニス・ブリエト、ピアニストのマヌエル・ヴァレラといったラテン・ジャズの最高峰プレイヤーがズラリと参加しています。夏のうちに聴きたかった1枚かと思いきや、涼しくなった今の季節にぴったり心地よく優雅な仕上がり。今は叶わない遠く離れた異国の地への旅、そして楽しくお酒を1杯...ひとときだけそんな気分させてくれます。(梅田大阪丸ビル店 谷本真悟)

JAZZ



Margin Call
Gwen Cahue Acoustic Quartet
[Label Guest AD6844C]

古き良きヨーロッパの街並みによく合いそうな、軽やかなスイング感と哀愁漂う音色たち...ジャンゴ・ラインハルトから受け継がれるマヌーシュ・ギターの注目株、グウェン・カウエによるニューアルバム。2本のギターとヴァイオリン、ベースという弦楽器のみの伝統的なスタイルによるカルテット作品です。オリジナル曲にピアノ、ミンガス、ピーター・ソンのジャズナンバーを取り上げている他、レディオヘッドの『Exit Music (For a Film)』を原曲とはまた違った味わいに仕上げており、新しい世代ならではの感覚もしっかりと押し出した1枚となっています。(梅田大阪丸ビル店 谷本真悟)